**第１学年３組　算数科学習指導案**

**１　題材名**　　たしざんとひきざん

**２　本時の学習指導**

（１）目標

　「何十」－「何十」、100－「何十」の計算や、2位数―1位数（くりさがりなし）の計算をすることができる。（数量や図形についての技能）

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 問題場面おりがみが　５０まい　あります。３０まい　つかうと　のこりは　なんまいに　なるでしょう。１　問題場面を読み、残りの枚数を求める式をたてる。C1　引き算です。C2　「残りの枚数」と書いてあるので引き算だと思います。２　「50－30」の計算の仕方を考える。C1　10の位は5－3で2　　 1の位は0－0で0　　 10の位が2、1の位が0なので20になる。C2　50を10の束で考えると5つ分、30も10の束で考えると3つ分なので5－3で考えられる。5－3＝2であるが、これは10の束の話なので答えは20になる。３　考え方を発表する。C1　どちらの計算にも5－3の計算が出てくる。C2　10の束をもとにして考えている。まとめ50－30の計算も10のまとまりを使えば、簡単に計算できる。４　本時のまとめをする。５　練習問題を解く。　　教科書p.127　鉛筆１、２ | * 児童に引き算になる理由を考えさせ、「残り」を求めるから引き算になるということを説明させる。
* 児童に計算の仕方を考えさせ、ノートに記入させる。
* 必要に応じて算数セットを使用させる。

◆　「何十」－「何十」の計算の仕方を考えることができている。（数量や図形についての技能）* 答えが20になることを全体で確認する。
* どちらの考えにも、10のまとまり、5－3が出てくることを確認する。
* それぞれの考え方を認めたうえで、10のまとまりを単位とすれば、5－3になるので、既習の減法で簡単に計算できることをおさえる。
* 「何十」－「何十」の計算もまとまりで考えれば、今までと同じように計算できることを確認する。
* 練習問題に取り組む。時間が余れば計算ドリルなど教師が指定したものを進める。
 | 10′15′10′10′ |

**３　備考**　在籍児童　34名

**４　板書計画**

|  |
| --- |
| 10のくらいは5－3で21のくらいは0－0で0なので１０のくらいと1のくらいを合わせて20になる。おりがみが　５０まい　あります。３０まい　つかうと　のこりは　なんまいに　なるでしょう。　　→「のこりは」だから　ひきざん（しき）50－30　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　どちらも10のまとまりをつかっている。考え方　　　　　　　　　　　　　　　　　　5－3が出てくる。50－30を10のたばでかんがえると5－3になるので、50－30は20になる。50－30のけいさんも10のまとまりをつかえば、かんたんにけいさんできる。 |